

令和6年度第1回 釧路町ゼロカーボン推進協議会 会議録

1. 開催日	令和6年6月26日（水）10:00～11:40
2. 場所	釧路町役場2階 庁議室
3. 出席者	委員10名中9名出席、過半数により会議は成立 A会長、B副会長、C委員、D委員、E委員、F委員、H委員、 I委員、J委員
4. 欠席者	G委員
5. 事務局	釧路町環境生活課 大中課長、伊東係長、永井主事
6. 配布資料	資料1 釧路町地球温暖化対策実行計画区域施策編 資料2 釧路町地球温暖化対策実行計画区域施策編（概要版） 資料3 ゾーニングマップの基本的な考え方 資料4 公共施設のCO2排出量 資料5 令和6年度の取組予定 資料6 釧路町デコ活推進補助金
7. 議事概要	<p>1 委嘱状交付 ⇒町長から各委員に対し手交。</p> <p>2 会長・副会長の選任について ⇒事務局一任との意見あり、会長に上園昌武氏、副会長に鈴木一浩氏を選任。</p> <p>3 提言（北海学園大学 上園 昌武 氏） ⇒上園会長より、地域が脱炭素に取組み意義について提言。</p> <p>4 議事 （1）報告事項 ア 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について イ 釧路町再エネ導入促進エリア設定ゾーニング事業委託報告書（ゾーニングマップ）について ウ 公共施設のCO2排出量の現況について ⇒事務局より資料1～4に基づき一括して説明。 （2）協議事項 エ 今後の計画の進め方について ⇒事務局より資料5～6に基づき説明。発言内容については「8.内容」のとおり。</p>

8. 内容

I委員

・以前ボランティアに参加した際、キタサンショウウオを見てその姿に感動した。現在開発中の高速道路は避けて工事されていると伺ったが、鉦路町内の太陽光パネルは配慮されているのか。私は今ある動植物を守ってほしいと思っている。
→本年4月からゾーニングマップを公表し、保全すべきエリアを明確に示したところ。また、太陽光パネルを設置する事業者には、環境に配慮しながら検討するようお願いしているところ。
・厚岸の環境イベントに参加した際に、昆布が光合成によって二酸化炭素を吸収するのを目の当たりにし、このような経験は教育の観点からも大事だと感じた。脱炭素研究会における家庭部門の取組検討の際には、地域のお母さんたちも含めたらどうか。
→参考とさせていただき、検討していきたい。

C委員

・職業柄、高齢者の資源ごみの分別を手伝うが、自分なりのやり方で分別してしまう人がいる。もっと啓発が必要だと思うので、町報などで周知していただけたらと思う。また、ブルーカーボンも二酸化炭素の吸収に効果があると思うので、町として進めていければ良いのではと思う。
→ブルーカーボンについては現在、昆布森地区で検討中。区域施策編にも吸収源として記載しており、町としても期待しているところ。

E委員

・洋上風力開発は昆布森のブルーカーボンの植生地と被るなど矛盾がある。今後再エネと環境保全のバランスをどのように調整するのが課題だと思う。
→ゾーニングマップの中で、事業者の皆様には関係者との調整の上、経済的利益のみで進めないでくださいとお願いをしているところ。

J委員

・地域新電力の調査検討を進めるとあったが、小売電気事業者にならなくてもできる。スマート電力の後ろ盾でも実現可能だと思うので、参考にいただければ。
→手法の一つとして認識。ただ、あくまでも作るのが目的ではなく、それをもってどのように課題を解決するかが大事だと思うので、そこを念頭に置きながら進めていきたい。

F委員

・町内で多くの太陽光パネルを目にするが、それを見てがっかりする観光客が多い。木を伐採して設置する場合もあると思うが、果たしてどれだけCO2は減っているのか。また、パネル自体熱を持つと思うが、それがむしろ地球温暖化には影響しないのか。
→太陽光パネルによりどの程度削減となっているのか、現状としてはお示しできない。熱については、パネル自体が持つのは70度程度だが、反射熱による影響がある可能性があるのは事実。
・車のない観光となれば理想だが、運輸の観点から話す現状では難しいだろうと思う。自社でどれだけCO2を出しているのかを把握していないが、どれだけ減らせと言われた方が取り組みやすい。ただ、減らす手法としてメーカーが出す車を買うことしか思いつかないのが、簡単に車を入れ替えることは難しい。

D委員

・公共施設に太陽光パネルを導入するのは理解するが、もっと自家消費をさせた方がよいのではないか。
→運動公園に設置する太陽光パネルはマイクログリッドを構築することによって、富原小・中、給食センターで自家消費する。また、役場庁舎でも発電された電気は自家消費をしており、消費電力の約4割ほどを太陽光パネルから賅っているところ。
・CO2を削減というのは目に見えず非常にわかりづらいことから、環境家計簿を学校等で作成してはどうか。子どもの教育のためでもあるが、それを家庭に持ち帰ることで親の取組にも繋がると思
・デコ活補助金の説明があったが、企業向けの補助メニューも欲しい。自家消費用に設置したいが、初期投資が大きいので、そういった支援があれば導入しやすい。
・陸上風力のポテンシャルがあるとの説明があったが、昆布森の方に試験的に設置することはできないか。太陽光はたくさんあるが、小型風力も試してみても効果があるのであれば、企業の取組の可能性も広がると思う。
・ソーラーカーポートの設置による事故が増えている。運動公園は駐車場ではなく、多目的広場において休憩場所にした方が良かったのではないか。
→役場のソーラーカーポートの反省を踏まえて、運動公園では15センチほど幅を広げて設置したところ。

H委員

・野菜農家がほとんどだが、ゼロカーボンに取り組めるか難しいところがある。ほとんどの大根を本州へ出荷しているが、2024年問題の影響で輸送コストが大きくなっているのが課題。こういった状況の中、果たして何ができるのか。
→地域内供給を考えてみるというのも一つの手法。鉦路市近郊も含めて、ビジネスができるのではないか。

B委員

・ゼロカーボンは結局のところ再エネと森林吸収、ブルーカーボンといった光合成の取組に絞られる。弊社では、森林吸収量と炭素固定量によって既にカーボンネガティブとなっている。どんなに削減してもCO2が出てしまうのは否定できないので、Jクレジットなどの排出量取引も今後重要になってくる。また、車で言うとヨーロッパはフルハイブリッドできないので、ディーゼル車やプラグインハイブリッドしか作っていないのが現状。それを自分らで基準を設定し、環境負荷が低いと訴えているのは疑問である。

以上